

H15 日本語教育アドバイザー派遣制度に係るアンケートまとめ

回答者：H15年度派遣日本語教育アドバイザー10名

1. 今回の講座の日程（期間）はいかがでしたか。

- ・3時間の講座は初めてだったが、非常によかった。2ヶ月も短すぎず長すぎず、よかった。
- ・予定された期間に合わせて内容を構成するので、期間に不都合等はなかった。
- ・ポイントを絞って10回は良かった。
- ・今まで大体13~15回で行ってきたものを8回（16時間）で、とのことだったので短すぎた。
- ・初心者向け養成講座だったので、10回では短かった。初級前半の項目を扱うにはあと5回、全15回ぐらいあると良かった。
- ・時間が不足してしまった。もう2、3日あれば先生方がすべきことを徹底できたのではないか。
- ・年未年始は避けたほうが取り組みやすいと思う。3時間×5回または2時間×5回で一度開催し、活動開始後に再び続きの講座を開いた方が、日本語ボランティアの養成にはより効果的とも考えられる。
- ・中級講座の期間としては5回では短いと感じた。10日くらいは欲しい。
- ・12回は少し短かった。15回くらい欲しかった。
- ・教科書の何課から何課までと決めないで、回数に合わせて内容にしたのでこれはこれで良かった。
- ・2時間×15回は良かったが初めに日程相談があった方がよい。広報してから依頼が来たので予定調整が困難だった。

2. 講座参加者の人数（雰囲気）はいかがでしたか。

- ・雰囲気は良かったが、できれば20人弱が良いと思う。一人で30人以上は大変。
- ・各人熱意が見られ受講態度は良かった。経験者と未経験者が一緒になったのは適切ではなかった。
- ・未経験者5人を含んで常時15、6名。非常に活発でやり甲斐のあるクラスだった。
- ・まじめで熱心な人が多くてやりやすかった。模擬実習をする場合30人は少し多い。
- ・とても熱心で実習中心に和気あいあいとした楽しい雰囲気が進められた。人数的にも10~20人位までだと実習チャンスも多く持て、自信につなげることができる。
- ・大変積極的で、より良い授業をしたいという先生方の熱気が伝わってきた。
- ・平日の夜間なので仕事を持っている人が多く年代も様々、若い男性の参加もありとても熱心に学んでくれた。受講者参加型で実習を多く取り入れるには適当な人数で活発な講座になった。
- ・皆熱心にメモをしたり質問があったりとてもよい雰囲気だった。人数も20名くらいでちょうど良かった。
- ・とても若い人も多く、和気あいあいとした楽しい講座になった。
- ・経験者と未経験者が1対2ぐらいの比率でバランスが良かった。熱心でしかも楽しく勉強していた。質問なども積極的で、教えていて楽しかった。
- ・一人一人が疑問を抱えていたので熱心だった
- ・数名癖の強い人がいて多少困った以外は、素晴らしいメンバーが多かったと思う。

3. ボランティア教室(団体)との打ち合わせはいかがでしたか。

- ・事前打ち合わせはもちろん、途中のフォロー、終わってからの反省会等コミュニケーションが充分取れて大変良かった。
- ・申請団体を主として考えた講座内容を打ち合わせてスタートしたが、開講までの間に三市町合同となったため、内容が出席者のレベルと合わなくなったのは残念だった。
- ・代表者が経験豊かで、目標の明確な事前打ち合わせができた。
- ・連絡はよくとれたし、よく理解してもらえてやりやすかった。
- ・今回は2団体合同であったが、両団体、会場ともよく連絡がとれていてスムーズに行えた。
- ・約2ヶ月前に実施。グループの抱えている問題ばかりでなく、先生方の悩みなども聞いたので、前もってグループの現状を知ることができ、講座準備に役立った。
- ・担当者から地域の状況と講座の内容についての要望を聞き、それを参考にシラバスを組み立てたので受講者が必要としている知識や情報等具体的に役立つことを講座に取り入れることができた。
- ・十分にしたがグループ内での話し合いがまとまっていないようだった。
- ・充分したので何の問題もなかった。
- ・代表者と事前に一度打ち合わせをしたほか、受講者ともメールで連絡を取り合った。
- ・代表者と事前に一度会って、その後は電話で連絡を取り合ったが、スムーズにいった。
- ・事前打ち合わせはなかった。自分たちのやり方が一番で、それ以外は間違いであるといった感じの受講者もいて、それならば、今後はボランティア団体のメンバーが講師を務めたほうがいいのかと思った。

4. アドバイザー制度について、ご意見・ご要望等ありましたらご自由にお書きください。

- ・多様なグループがない地域(学習者が教室を選べない地域)では、日本語教育だけでなく異文化理解や人々の交流を視野に入れた日本語クラス作りをしていく必要がある。
- ・初級だ、レベルアップだといっても、内容には実技から知識・理論まで様々あり、申請する側の要望を聞くだけでは本当に期待されている内容が何か、なかなか把握できない難しさがある。
- ・2箇所派遣されて経験した結果、アドバイザーに期待されている内容がおぼろげながらわかってきた気がする。
- ・未経験者や経験の浅い人対象としては期間が短すぎる。受講者のその後を支えていく体勢作りが必要だと思う。また、講座日程を決める前に主催者側と打ち合わせができればと思う。
- ・新しく教室を立ち上げようとしているとき、また試行錯誤しながら教室運営をしているときなどとても助けになる良い制度だと思う。レベルアップ講座の場合は漠然と「レベルアップ講座をしてください」ではなく、どんな点をレベルアップしたいのか具体的に要望を出し、アドバイザーも得意分野があれば特記するなどすれば、もっと成果が出るのではないかと。
- ・ボランティアの先生は強い情熱を持っている反面教え方などの点で未熟な面も見られる。しかしちょっとしたところを見直すことで改善されるので、教え方のレベルを高めるためにこの制度を続けてもらえたらと思う。

- ・ 講座を担当したアドバイザー同士が情報や意見の交換をはかる機会があれば、各々がより向上できるのではないか。今後は成人対象の日本語教室ばかりでなく、子供たちへの対応やその保護者との関わりについても考えていく必要があるのではないか。
- ・ ボランティアによっては文法や授業の進め方の落差が大きいように感じた。今後もこの制度を続けてほしい。
- ・ 地域により受講者のタイプが違うので、教室で教える内容も異なってくることを実感した。
- ・ 初心者はなんとなく理解したがまだ身にはついていない状態で、彼らが継続して、または同じ内容でも再度勉強できるようになると良いなと思った。
- ・ 日程と場所が決まってから講師を探すというのは、講師側にも調整しにくいものがあると思う。また個人的には現在つくばの仕事の殆どに関係しているので、スケジュール調整が難しく、遠方に行くことは難しいことがある。それから参加費を無料にせず、いくらかとして、それを後の彼らのボランティア活動の資金にしてはどうか。有料だとそれなりの意思のある人が来て効率もよくなると思う。